

平成30年2月28日
国立研究開発法人 防災科学技術研究所

最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから ～数値震動台研究開発プロジェクト成果発表会～

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、Eーディフェンス実験のデータを活用して、地震による構造物の損傷破壊過程、並びに、室内被害を再現するシミュレーション技術を開発（数値震動台研究開発プロジェクト）しています。

数値震動台研究開発プロジェクトでは、シミュレーションの再現性能、予測性能向上のための高度化研究、並びに、シミュレーションの利活用研究を推進し、地震災害に対する予防力、対応力の向上に資する研究成果の創出を目指しています。

この度は、「最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから」と題し、建築、地盤構造物のシミュレーションの高度化やAI（人工知能）、VR（バーチャルリアリティ）を用いた利活用に向けた取り組みの成果を報告する成果発表会を開催します。

日時：平成30年3月29日（木）14:00～18:00

会場：日本建築学会 建築会館ホール（〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20）

<https://www.aij.or.jp/jpn/guide/map.htm>

JR田町駅、都営地下鉄三田駅（浅草線・三田線）徒歩3分

参加申し込み：

報道機関の方：別添の「プレスご回答用紙」にて、FAXでお申込ください。

報道機関以外の方：<http://www.bosai.go.jp/hyogo/>

（要事前登録 定員150名 先着順）

内容：別紙資料による。

本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会、兵庫県政記者クラブ、三木市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

【担当者】

国立研究開発法人防災科学技術研究所 地震耐震実験研究部門

主任研究員 山下 拓三

【連絡先】

国立研究開発法人防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター 研究推進室

TEL：0794-85-8211（代表） FAX：0794-85-7994

E-mail：e-def@bosai.go.jp

最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから ～数値震動台研究開発プロジェクト成果発表会～

国立研究開発法人防災科学技術研究所（理事長：林春男）は、Eーディフェンス実験のデータを活用して、地震による建造物の損傷破壊過程、並びに、室内被害を再現するシミュレーション技術を開発（数値震動台研究開発プロジェクト）しています。

数値震動台研究開発プロジェクトでは、シミュレーションの再現性能、予測性能向上のための高度化研究、並びに、シミュレーションの利活用研究を推進し、地震災害に対する予防力、対応力の向上に資する研究成果の創出を目指しています。

本成果発表会では、「地震防災のためのイノベーションプラットフォームの構築を目指して」と題する基調講演と、数値振動台研究開発プロジェクトの研究成果報告を行います。

特に、研究報告では、「最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから」と題し、これまでの建築建造物や地盤建造物のシミュレーションの高度化や人工知能（AI）、バーチャルリアリティ（VR）を用いた利活用に向けた取り組みの成果を報告いたします。

< プログラム >

日時：平成30年3月29日（木）14:00～18:00

会場：日本建築学会 建築会館ホール

司会：田川 浩之（防災科学技術研究所客員研究員，武庫川女子大学）

14:00～14:05	開催挨拶 梶原 浩一（防災科学技術研究所 地震減災実験研究部門長）
14:05～14:10	来賓挨拶 調整中（文部科学省）
14:10～14:50	基調講演「地震防災のためのイノベーションプラットフォームの構築を目指して」 藤原 広行（防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門長）
15:00～15:20	数値震動台研究プロジェクトの概要 大崎 純（数値震動台研究開発分科会委員長，京都大学）
15:20～15:50	建築構造シミュレーションの高度化研究 宮村 倫司（数値震動台建築 WG 主査，日本大学，防災科学技術研究所客員研究員）
15:50～16:10	建築構造シミュレーションの利活用研究 ーAI を用いた構造ヘルスマニタリングー 小檜山 雅之（数値震動台建築 WG 委員，慶應義塾大学）

16:20~16:50	室内被害シミュレーションの高度化研究 磯部 大吾郎（数値震動台設備 WG 主査, 筑波大学）
16:50~17:10	室内被害シミュレーションの利活用研究 – 防災教育のための VR 可視化 – 山下 拓三（防災科学技術研究所）
17:10~17:30	地盤シミュレーションの高度化研究 Pal Mahendra Kumar（防災科学技術研究所）
17:30~17:50	詳細有限要素モデルの簡易構築アプリケーションの開発 藤原 淳（防災科学技術研究所）
17:50~18:00	閉会挨拶 堀 宗朗（数値震動台研究開発分科会副委員長, 東京大学）

参加申し込み

兵庫耐震工学研究センターHPよりお申込みください。（定員 150 名 先着順）
<http://www.bosai.go.jp/hyogo/>

会場へのアクセス

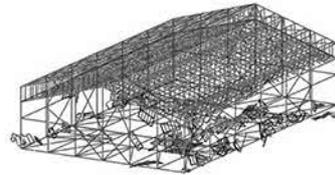
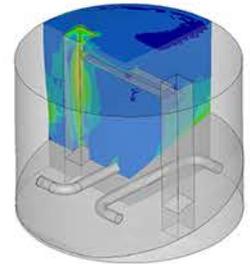
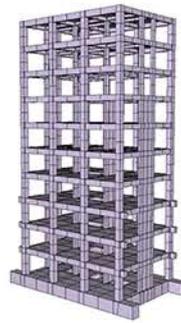
日本建築学会 建築会館ホール（〒108-8414 東京都港区芝 5-26-20）
<https://www.aij.or.jp/jpn/guide/map.htm>

JR田町駅, 都営地下鉄三田駅（浅草線・三田線）徒歩 3 分

最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから —数値震動台プロジェクト成果発表会—

開催概要

日時：平成30年3月29日(木)
講演会：14:00 - 18:00 (参加無料, 開場 13:30)
意見交換会：18:00 - 20:00 (会費 3,000円)
会場：日本建築学会 建築会館ホール
〒108-8414 東京都芝5丁目26-20
主催：国立研究開発法人 防災科学技術研究所
後援(予定)：一般社団法人 日本建築学会
一般社団法人 日本計算工学会
公益社団法人 土木学会
公益社団法人 地盤工学会



開催趣旨

国立研究開発法人防災科学技術研究所(理事長：林春男)は、E-ディフェンス実験のデータを活用して、地震による建造物の損傷破壊過程、並びに、室内被害を再現するシミュレーション技術を開発(数値震動台研究開発プロジェクト)しています。数値震動台研究開発プロジェクトでは、シミュレーションの再現性能、予測性能向上のための高度化研究、並びに、シミュレーションの利活用研究を推進し、地震災害に対する予防力、対応力の向上に資する研究成果の創出を目指しています。この度は、「最先端の構造シミュレーション技術が拓く地震防災研究のこれから」と題し、建築、地盤構造物のシミュレーションの高度化やAI(人工知能)、VR(バーチャルリアリティ)を用いた利活用に向けた取り組みの成果を報告する成果発表会を開催します。

プログラム

- 14:00 開催挨拶：梶原 浩一(防災科学技術研究所 地震減災実験研究部門長)
14:05 来賓挨拶：竹内 英(文部科学省研究開発局 地震・防災研究課長)
14:10 基調講演「地震防災のためのイノベーションプラットフォームの構築を目指して」：
藤原 広行(防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門長)
(休憩)
15:00 数値震動台研究プロジェクトの概要：大崎 純(数値震動台研究開発分科会委員長, 京都大学)
15:20 建築構造シミュレーションの高度化研究：宮村 倫司(数値震動台建築WG主査, 日本大学)
15:50 建築構造シミュレーションの利活用研究 -AIを用いたヘルスマonitoring-：
小檜山 雅之(数値震動台建築WG委員, 慶應義塾大学)
(休憩)
16:20 室内被害シミュレーションの高度化研究：磯部 大吾郎(数値震動台設備WG主査, 筑波大学)
16:50 室内被害シミュレーションの利活用研究 -防災教育のためのVR可視化-：
山下 拓三(防災科学技術研究所)
17:10 地盤シミュレーションの高度化研究：Pal Mahendra Kumar(防災科学技術研究所)
17:30 詳細有限要素モデルの簡易構築アプリケーションの開発：藤原 淳(防災科学技術研究所)
17:50 閉会挨拶：堀 宗朗(数値震動台研究開発分科会副委員長, 東京大学)
18:00 意見交換会(会場：建築会館ホール ホワイエ)

問い合わせ・参加申し込み

国立研究開発法人 防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター 研究推進室
Tel: 0794-85-8211 (代表), Fax: 0794-85-7994, E-Mail: e-def@bosai.go.jp
<http://www.bosai.go.jp/hyogo/> (左記ウェブサイトよりの申し込みをお願いいたします)